



公益財団法人
ソーシャルサービス協会だより

2018年
5月18日
事務局発行
No.22

予算遂行は必須の課題！ 決算前で

2017年度は1,337万円の赤字！

表1) 2017年4~3月の損益結果

	実績	予算	前年	予算差	前年差
1 旭川事業所	-5	5	21	-10	-26
2 ※せせらぎ	-14	30	-125	-44	111
3 青森事業所	-5	-29	-19	24	14
4 仙台事業所	47	34	-53	13	100
5 ※塩釜事業所	-387	106	-199	-493	-188
6 多摩支所	-119	30	-235	-149	116
7 ITセンター	424	260	437	164	-13
8 ワークセンター	557	-119	83	676	474
9 京都事業所	-1,519	14	-201	-1,533	-1,318
10 宮若事業所	34	19	22	15	12
11 田川事業所	-51	-20	153	-31	-204
12 福岡事業所	-203	2	-442	-205	239
13 都城事業所	12	-23	77	35	-65
14 本部	-108	151	-697	-259	589
計	-1,337	460	-1,178	-1,797	-159

表1) 2017年年度の損益結果は、-1,337万円であった。予算に対し-1,797万円、前年に対し-159万円となっている。(2016年は高知と横浜があり全体では-1,387万円であった)

◆損益結果の予算と実績の差をどうみるか

超過達成は、青森、仙台、ITセンター、ワークセンター、宮若、都城の6事業所で、未達成は、旭川、せせらぎ、塩釜、多摩、京都、福岡、田川、の7事業所と本部となっており、6事業所が達成し、7事業所が未達成だった。本部の赤字はユニオンコーポ改修工事の償却費年間220万円によるものである。塩釜と京都の予算差が大きい。とりわけて京都の赤字が大きい。赤字額-1,519万円は予算に-1,533万円であり、全体の赤字-1,337万円をも上回るものとなっている。集中減算1,000万円が大きいのしかかっている。

前年実績との比較では、改善したところは、せせらぎ、青森、仙台、多摩、ワークセンター、宮若、福岡、本部である。悪化したところは、旭川、塩釜、ITセンター、京都、田川、都城となっており、7事業所と本部が改善し、6事業所が悪化した。本部の改善は、この一年で3つの貸室のユーザー確保が出来たことによる。仙台は利用者減の際の必死の取組みが奏功している。ワークセンターは宿泊事業で苦勞しているが、費用の節約で奏功している。

◆収入の確保はどうであったか

表2) 収入は予算に対して-1,630万円、前年実績に対しては、-2,090万円となっている。予算を超過しているのは、旭川、青森、多摩、ITセンターの4事業所と本部である。未達成は、せせらぎ、仙台、塩釜、ワークセンター、京都、宮若、都城、福岡、田川の9事業所である。ITセンターの予算の超過達成は1,244万円と多額である。飛び込み(予定外の仕事)が入ってきたことと思われる。さもないと予

算そのものの信憑性が問われる。解明が必要である。ワークセンターは宿泊利用者の確保が出来なかったことによる。その分支出削減に取り組んで予算以上の損益を確保している。

表2) 2017年4~3月の収入実績

	実績	予算	前年	予算差	前年差
1 旭川事業所	111	75	78	36	33
2 ※せせらぎ	1,345	1,688	1,556	-343	-211
3 青森事業所	430	410	430	20	0
4 仙台事業所	1,526	1,842	1,558	-316	-32
5 ※塩釜事業所	3,786	5,116	4,360	-1,330	-574
6 多摩支所	3,229	3,120	2,995	109	234
7 ITセンター	5,244	4,000	5,149	1,244	95
8 ワークセンター	11,388	12,420	12,114	-1,032	-726
9 京都事業所	10,084	10,098	10,929	-14	-845
10 宮若事業所	235	240	149	-5	86
11 田川事業所	1,100	1,199	1,395	-99	-295
12 福岡事業所	76	272	0	-196	76
13 都城事業所	2,698	2,820	3,047	-122	-349
14 本部	945	526	527	419	418
計	42,197	43,826	44,287	-1,629	-2,090

塩釜と都城は、利用者の減によるものだが、その後の利用者が確保できないままになっている。福岡は2回開催予定の講習会が1回しか開催できなかったことによる。

◆2018年度予算をやりきるために何が必要か

①公益財団として事業を継続していくこと、そのために全職員が心をひとつにすること。②目標の数量化をする。ジャンプすれば届くハードルにする。どうすれば届くか、その具体化をはかる。③毎月が勝負！月次決算を軌道に乗せる(PDCAサイクルの日々実践の検証)。毎月、各事業所で結果を検討して、次月への対策をとる。④全国所長会議開催の重視。必ず全所長の出席。経験の交流、学習、団結をかためる。

◆まとめ

財団は、残念ながら発展途上の半ばにある。事業体ならば普通にやられていること(法則とっていい)がやれていない。要因は各事業所と職員のところである。理解されていないことによる。そのことは内閣府の立ち入り時に「組織の体をなしていない」という指摘にあるが、要するにバラバラな運営、分散的な発想がまかり通っている状態のことである。経営で困難を抱えたところに対しての組織的対応、本部を軸にした動きがとれていない。「それでよし」とする認識が問題なのである。ひとつの事業体であるという考え、団結していこうという思想に欠けると言わざるを得ない。事業をやっているならば、日々刻々変化する周りの状況をキャッチして必要な対応をしなければ「ゆでガエル」になること必至である。この2年間の4つの事業所閉鎖はその典型的な事例と云って過言でない。P(計画)、D(実践)、C(点検)、A(再度挑戦)サイクルは世界の常識である。月次決算はその最初の実践である。月報もしかり。一人一人の力を引き出す職場会議の大切なことを再認識することも必要である。内閣府の指摘は、ごく普通の事である。財団が別の世界で生きているならいざしらず、試されずみの事業のあり方を積極的に学んで取り入れて行こう。

4月の業務月報

◆仙台事業所

1. 業務遂行に関すること

ヘルパー人数不足のため、正職員2名が夜間や休日対応する状態が続いている。ケアマネジャーは、資格更新のために研修参加中。

利用人数、職員数に変化はありませんでした。

2. 予算遂行に関すること

3月比+8万円でした。入院した方はいません。逆に、施設からの退所者、病院からの退院者があつたので増加となっています。

備考：正職員2名の負担軽減が喫緊の課題です。対策として登録ヘルパー等の増に取り組んでいきます。

◆ワークセンター

1. 業務遂行に関すること

①新年度がスタートしました。前月報告しましたが、清掃事業部の鴨川清掃は落札できました。

全体的には、ソーシャルホームを除いて前年度並みの収益確保は可能だと考えています。

②ソーシャルホームは、7月末日で閉鎖します。

今後、就労自立を目指す利用者は自立支援センターに入所させていきます。

③平成32年に向けて、新規事業の開拓を目指していきます。そのために、外部からの人材登用も考えたプロジェクトチームを今年度には設置し、異業種への仕事確保をはかります。

④能力活用推進事業については、「自転車整理」事業がなくなりましたが、「トイレ清掃」事業は6月以降の契約が出来ていません。6月以降無くなる可能性もあります。

2. 予算遂行に関すること

①2018年度予算については、すでに本部に報告していますが、ソーシャルホーム事業の廃止と、新規事業への挑戦に向けたとりくみで、予算変更も考えています。

②経常収益を伸ばし、利益拡大に向けて、清掃事業部で取り組んでいる「ごみ屋敷」の処分事業を増やすために、各行政や地域包括センターへの宣伝・要請にとりくみます。

◆ITセンター

1. 業務遂行に関すること

1) 職業訓練

11月生・・・訓練終了後3か月後の就職状況報告書で、ほとんどの方が派遣利用で、雇用期間が1か月間

と短く、就職支援費対象には至らなかった。

※事務未経験の方が事務職へ転職するため、派遣は1ヶ月と雇用が最低期間であるため、就職支援費対象とならないため。

2月生・・・3月末で修了。内定者は、20代から30代後半者数名。残りはまだ書類の応募すら完成しておらず、困難を極める。

3月生・・・5月末で修了予定。介護での退校者あり(今後の老老介護で増える見込み)

残り1ヶ月でも内定者がいなく、求人の応募もしていない状態である。50代前半の方は中々頑固で希望条件と合わない、応募をしてくれない。訓練修了後3か月後の就職は大変困難を極めると思われる。

4月生・・・4月末に20名入校。平均年齢は40歳中ころ。19～53歳までと幅広く、難しいと思われる。受験に失敗しての就職、前職で体調不良で2週間に1回通院、1か月に1回通院、医師の判断で訓練受講した、離婚調停中など就職に問題を抱える方が約半分を占める。今後3ヶ月間訓練を受講できるかが問題である。開講してからわかることでそれまでわからない。本人も言わないのでキャリアコンで判明する。

※経験上・・・心身に問題のある方は、訓練途中で体調不良になりその後就職をせず、治療に専念となっている。また、就職をしても数週間で離職している。その後、当訓練校が心の寄り所となり、依存し何度も訓練校の担当者に夜でも電話がある。

2) ホームページ作成
特になし

2. 予算遂行に関すること

1) 職業訓練

訓練生の質が低下し、訓練修了後3か月以内で就職できないため、就労支援費がもらえない。

2) 3月生が介護退校となり、予算遂行ができない。

3. その他

大手銀行の大量な退職が予測される。元銀行員で50歳40歳での再就職は、最も困難である。

備考：国が働き方改革を行っても大手企業にはよいか小企業には浸透していないのが現状である。また、労働者が勝手にパワハラだと思い込んで離職し、その後の就職に影を落としている。それが原因で心身に支障をきたしている。